

第139回 日商簿記検定試験 2級 工業簿記 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問

1. 補助部門から製造部門への配賦
- (1) 修繕部
- ① 第1製造部：9,000,000円（修繕部門費）÷（60回＋30回）×60回＝6,000,000円
- ② 第2製造部：9,000,000円（修繕部門費）÷（60回＋30回）×30回＝3,000,000円
- (2) 材料倉庫部
- ① 第1製造部：7,000,000円（材料倉庫部門費）÷35,000千円×20,000千円＝4,000,000円
- ② 第2製造部：7,000,000円（材料倉庫部門費）÷35,000千円×15,000千円＝3,000,000円
- (3) 工場事務部
- ① 第1製造部：8,000,000円（工場事務部門費）÷（52人＋48人）×52人＝4,160,000円
- ② 第2製造部：8,000,000円（工場事務部門費）÷（52人＋48人）×48人＝3,840,000円
- (4) 第1製造部の予定配賦率
- $(65,760,000円 + 6,000,000円 + 4,000,000円 + 4,160,000円) \div 10,800時間 = 7,400円/時間$
- (5) 第2製造部の予定配賦率
- $(48,960,000円 + 3,000,000円 + 3,000,000円 + 3,840,000円) \div 12,000時間 = 4,900円/時間$
2. 製造間接費（第1製造部）勘定の記入面
- (1) 予定配賦額
- $800時間（当月の実際直接作業時間） \times 7,400円/時間（予定配賦率） = 5,920,000円$
- (2) 予算差異
- $79,920,000円 \div 12か月（第1製造部の1か月1たりの予算） - 6,000,000円（実際発生額） = 660,000円（有利差異）$
- (3) 操業度差異
- $\{800時間（当月の実際直接作業時間） - 10,800時間 \div 12か月（第1製造部の1か月あたりの予定直接作業時間）\} \times 7,400円/時間（予定配賦率） = \triangle 740,000円（不利差異）$

第5問

1. 販売数量
- $1,120,000円（売上高） \div 400円（販売単価） = 2,800個$
2. 直接原価計算による損益計算書
- (1) 変動売上原価
- $812,000円（全部原価計算による損益計算書の売上原価） - 168,000円（製造原価に含まれる固定費） = 644,000円$
- (2) 変動製造マージン
- $1,120,000円（売上高） - 644,000円（変動売上原価） = 476,000円$
- (3) 変動販売費
- $203,000円（全部原価計算による損益計算書の販売費および一般管理費） - 24,000円（固定販売費） - 95,000円（固定一般管理費） = 84,000円$
- (4) 貢献利益
- $476,000円（変動製造マージン） - 84,000円（変動販売費） = 392,000円$
- (5) 営業利益
- $392,000円（貢献利益） - 168,000円（製造固定費） - 119,000円（固定販売費および一般管理費） = 105,000円$
3. 損益分岐点売上高（問3の解答）
- (1) 貢献利益率
- $392,000円（貢献利益） \div 1,120,000円（売上高） = 35\%$
- (2) 固定費
- $168,000円（製造固定費） + 119,000円（固定販売費および一般管理費） = 287,000円$
- (3) 損益分岐点売上高
- $287,000円（固定費） \div 35\%（貢献利益率） = 820,000円$
4. 営業利益140,000円を達成するための売上高（問4の解答）
- $\{287,000円（固定費） + 140,000円（目標営業利益）\} \div 35\%（貢献利益率） = 1,220,000円$